



クマに注意！！

クマは一般的に人に対し警戒心が強い動物といわれています。しかし、最近、里でもたびたびクマが目撃されるようになりました。こうした現象は、狩猟等圧力の減少、森林環境・里地里山の変化、中山間地域の社会変化などからクマが里へ出やすくなり、人間との距離が近くなって、クマが人間へ慣れてしまい、警戒心がなくなってきたためといわれています。こうしたクマとの遭遇を避け、被害を未然に防ぐために次のような心構えが重要です。

1 里を餌場と認識させないための心構え

知らず知らずのうちに、クマがあなたの周辺に住み着こうとしているかもしれません。ここではクマの生息できる場所ではないことを、はっきりさせるために次の点に注意しましょう。

- ① 人家の周りにクマの餌となりうる生ゴミ等を放置しない。
一般の家では、残飯やコンポストをきちんと管理する。廃棄果樹等は適切に処分する。
- ② 人家の周りに収穫しない柿の木などを放置しない。
果樹はクマの格好の餌となるため、クマに利用させないために残さず収穫する。
- ③ ペットフードや家畜の餌を食べていたクマの報告もあるため、ペットフードなどはフードストッカーや納屋などに保管することが望ましい。
- ④ 集落や通学路近くの林は暗くないか？クマは身を隠すヤブがあると平気で人家近くまで出没するので、地域内を点検し、ヤブ刈りし明るくする。



2 遭遇しないための心構え

まずは、あなたの周辺にクマがいるのかどうか知ることが大切です。もし、いたとしてもクマは積極的に人間を襲うことはほとんどありませんので、住み着かないような対策や遇わないようにすることがまず必要です。

- ① クマがいるのかどうか調べてみよう。(痕跡を調べる)
 - ◆ クマの糞：人間と同じかちょっと大きめで形も人間と同じ。
食べ物によって変化。
 - ◆ 足跡：幅は成獣で7~13cm。形は右図を参照。→
 - ◆ 熊 棚：樹上に折った枝を集めたもので、鳥の巣に似ているが、枯葉がつくことで区別。
 - ◆ 熊 は ぎ：スギやヒノキの樹皮を剥がす行為のこと。樹皮が残り、甘皮部に歯で削いだ痕が残るのが特徴。
- ② クマの行動を知り、遇わないようにする。
 - ◆ クマの痕跡や目撃情報がある場所では突然出遭わないよう特に注意して笛や鈴、ラジオ、など音のするものを身につけ、クマに自分の存在を知らせるよう行動し、必要に応じて引き返す勇気をもとう。
 - ◆ 夏、1日の中で活発に行動するのは朝夕。春、秋は昼もよく活動している。人家の近くへは、夜間にやってくることもある。山際での農作業等はクマ鈴やラジオなど、音のするものを身につけて注意して作業をする。
 - ◆ 子グマを見つけたら親グマが近くにいると考えられるので、そっと立ち去る。子グマを守ろうと、親は攻撃してくるので危険である。



3 出遭ったときに興奮しない、興奮させないために

- ① 遠くにいるのを発見した場合は、あわてずそっと立ち去る。
- ② クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒切れを投げつけたりしない。
- ③ クマから目を離さないようにして、できるだけゆっくりと後ずさりしながらクマから離れる。クマとの間に立木等の障害物を入れることができる位置に移動することで突進を防ぐこともできる。
- ④ 背中を見せて逃げると、クマは本能的に襲ってくるので、走って逃げない。



問い合わせ先

福島県自然保護課

住所：福島市杉妻町2番16号 電話：024(521)7210